

2018年7月18日



## 乳がん検診 高濃度乳房



福岡県医師会 理事  
独立行政法人地域医療機能推進機構  
JCHO久留米総合病院  
田中 真紀



## がん検診の種類



### ・対策型検診

死亡率を下げる目的で、**有効性が確立された方法**で実施される公的な予防対策。公的な補助金が出る。  
市町村検診。一部の職域検診（任意型を行っている機関もある）。

### ・任意型検診

個人が自分の死亡リスクを下げる目的。  
医療機関が任意で提供する医療サービス（**有効性の確立していない方法も含まれる**）、検診内容をオプションで選べる人間ドック。職域検診の一部など。  
全額自己負担。

# 市町村のがん検診の項目について（平成28年4月1日以降）

厚生労働省においては、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成20年3月31日付け健発第0331058号厚生労働省健康局長通知別添。平成28年2月4日付けで一部改正）を定め、市町村による科学的根拠に基づくがん検診を推進。

## 指針で定めるがん検診の内容

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診に <b>に加え</b> 、胃部エックス線検査 <b>又は</b> 胃内視鏡検査の <b>いずれか</b>	<b>50歳以上</b> ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳代に対し実施可	<b>2年に1回</b> ※当分の間、胃部エックス線検査については年1回実施可
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	質問(問診)、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ) ※視診、触診は推奨しない	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回

2



2016年 第2753号  
2 政経 4 国政 5 政治 8  
J 6 小説 9 13 読評 9 10 11  
17 社会経済 18 福祉 13  
35 読書 19 サイエンス 21  
5 映画 音楽 22 23 25  
映画 音楽 27

THE YOMIURI SHIMBUN

読売新聞

2016年(平成28年)  
6月12日 日曜日



2016年6月12日 新聞

**乳がん検診見逃す恐れ**  
自治体7割「判別困難」通知なし

マンモグラフィ(乳腺エックス線撮影) 乳房を、板状のフィルムで薄くのはいてはさみ、撮影する。胸の脂肪で、40歳以上の女性に毎年1回、検診を推奨している。最新検査は乳房で推奨されていない。検診は、個人が負担して自宅で人間ドックなどで受ける任意型もある。

131市区調査

マンモグラフィ 女性半数写りにくく

「判別困難」通知なし

自治体7割「判別困難」通知なし

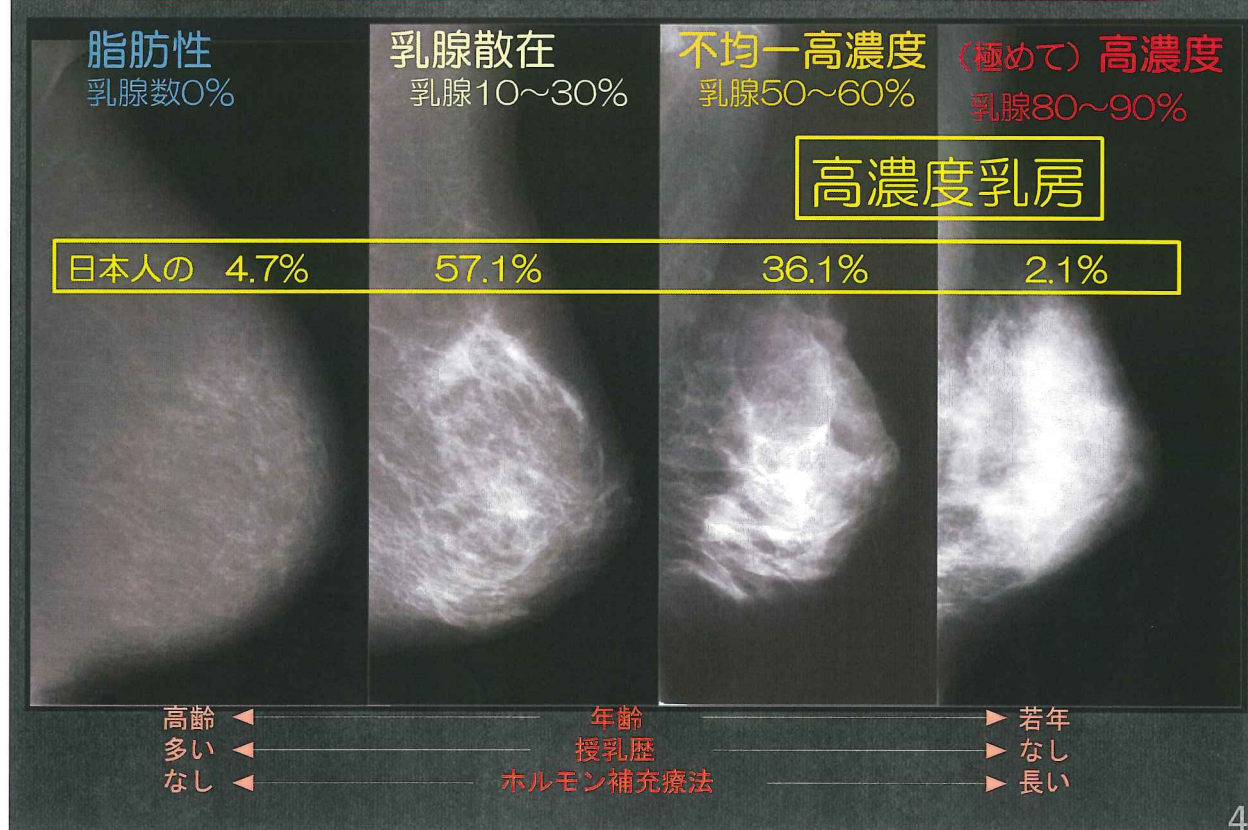
マンモグラフィ(乳腺エックス線撮影) 乳房を、板状のフィルムで薄くのはいてはさみ、撮影する。胸の脂肪で、40歳以上の女性に毎年1回、検診を推奨している。最新検査は乳房で推奨されていない。検診は、個人が負担して自宅で人間ドックなどで受ける任意型もある。

マンモグラフィ(乳腺エックス線撮影) 乳房を、板状のフィルムで薄くのはいてはさみ、撮影する。胸の脂肪で、40歳以上の女性に毎年1回、検診を推奨している。最新検査は乳房で推奨されていない。検診は、個人が負担して自宅で人間ドックなどで受ける任意型もある。

3



# マンモグラフィ画像



4



## 高濃度乳房



- 「高濃度乳房」は乳房の構成を表す言葉。  
(乳房内の乳腺と脂肪の割合)
- 病気ではない。追加の検査を受けるなどの特別な対応をとる必要はない。
- 欧米のデータでは、高濃度乳房の人は、脂肪性乳房の人に比べると乳がんになる可能性がわずかに高くなるとの報告あり。日本人のデータは限られている。
- 乳房自己検診が勧められる。



## 高濃度乳房：超音波検査は？



- マンモグラフィに加えて超音波検査を行うことによって死亡率が減少するかについてのエビデンスは明らかではない。
- 検診では、超音波検査の追加は自己負担。

\* 検診でがんを多く見つけても死亡率減少にはつながらない場合がある。

(がんを早期発見できる方法が、必ずしもがんで亡くなる人を減らせるわけではない。死亡率減少効果が確認された方法を用いることが重要)

平成30年3月31日「乳がん検診における乳房の構成の適切な情報提供に資する研究」  
平成30年5月24日厚生労働省健康局長通達

6



## 高濃度乳房：検診受診者に知らせる？



- 「高濃度乳房」は乳房の構成を表す言葉。病気ではない。知らせたとしても、その後に行うべき検査方法がないので、検診受診者に一律に通知することは望ましくないと考えます。
- **知る利益**：自身の乳房に対する意識が高まる
- **知る不利益**：がんでない人が過度な心配をし精神的負担や unnecessaryな検査を受けることがある。  
多くの自覚症状のない方が、専門病院を受診し、既にがんと診断されている方などの受診に影響する。

平成30年3月31日「乳がん検診における乳房の構成の適切な情報提供に資する研究」  
平成30年5月24日厚生労働省健康局長通達

7





## 日本人に適した検診方法は？



### 対策型検診:マンモグラフィ 40歳代以上

- 1)わが国では乳がん死亡が急増中、救命すべき世代は？
- 2)日本人女性では、40歳代の乳がん罹患が多く、高濃度乳房が多い(欧米は60歳以上に多い)
- 3)マンモグラフィは100%ではない。高濃度乳房問題あり。
- 4)高濃度乳房における腫瘍発見能が高いとされる超音波検査には、死亡率を下げるエビデンスはない。  
マンパワー、精度管理にも解決すべき問題がある。

8



## 乳がん検診のトピックス



- 対策型検診としては、マンモグラフィ単独検診。
- 高濃度乳房。
- 検診受診者に乳腺濃度を告知するか。
- 超音波検査併用について。
- 生命予後に関わらない乳がんの診断。  
.....過剰診断と過剰治療。
- 遺伝性乳がんなどハイリスク者の検診。
- 任意型検診について。
- がん検診の年齢の検討・・何歳まで行うか(上限)。
- 30歳代では、乳がん罹患がもっとも多い。  
(2018年5月30日国立がん研究センター)

\* AYA世代: Adolescent and Young Adult 思春期と若い成人 15歳~39歳

9